

平成26年9月1日

発行 六ツ美悠紀斎田100周年記念事業実行委員

中部分科会 広報担当

六ツ美のお祭り特集

中部分科会「宣伝・記録」の記録編集担当は、悠紀斎田をはじめ、神社・仏閣、記念碑、祭礼、学区行事等、現在の六ツ美を後世に伝えるため、情報・資料収集、写真撮影、聞き取り調査等の活動を行っています。今回は「六ツ美の祭り」の一部をご紹介します。

平成26年度六ツ美悠紀斎田お田植えまつり(中島町)

平成26年6月1日(日)第99回のお田植えまつりは、前日からの真夏日の中、晴後曇りの天候で少し風はありましたが、午後の暑い時間帯に行われました。

100周年記念事業を1年後に控え、関係者多数の協力の下で、例年の行事の他に新たなイベントも加えられ、大勢の来場者をお迎えした盛況な「お田植えまつり」でした。

- ・会場の近くに駐車場がなく、株式会社デソーに協力していただき、西尾製作所の駐車場からアイシン・エイ・ダブリュ六ツ美寮までの間シャトルバス運行がされました。
- ・12時～ 中島西記念館から県道衣浦岡崎線信号まで「お練りおどり」が行われました。
- ・12時15分～ 六ツ美中学校・六ツ美北中学校合同で5曲のブラスバンド演奏が行われました。
曲目:「軍師官兵衛メインテーマ」、「仁メインテーマ」、「J best 2013」、「Let it go」、「千本櫻」
- ・13時～ 記念式典

お田植え田東隣の斎田広場に祭殿が設けられ、その前に大きなテントが張られ、衆議院議員、県議会議員、市議会議員をはじめ、学区総代会、学区諸団体、小・中・保の教育機関、商工会及び企業、主基保存会、悠紀斎田保存会等の関係者が式典に参列しました。

本田保存会副会長の「開式のことば」ではじまり、神事は「修祓の儀、降神の儀、献饌、祝詞奏上、田の清祓い、玉串奉奠、撤饌、昇神の儀」が順に行われ、13時30分に終了しました。

その後、六ツ美悠紀斎田保存会会長柴田正光、六ツ美悠紀斎田100周年記念事業実行委員長野村弘の2名が主催者の挨拶をし、来賓祝辞は岡崎市寺田雄司副市長及び香川県綾川町の31名を代表して藤井賢町長が述べられ、13時53分「閉式のことば」となりました。

その後、お田植え田では、速やかに「田ならし・苗打ち」の作業が進められました。

- ・14時～ 悠紀斎田保存会、六ツ美4学区女性部、六ツ美商工会女性部、六ツ美南部小学校6年生児童から構成された総勢255名による「お田植え」及び「お田植えおどり」が行われました。

先ず、小学校男女児童の合唱「御田植唄」に合わせて「お田植え」が始まり、ほぼ半分進んだ8分後からは「お田植えおどり」が田の周囲を巡り、観客衆目の中、15分後の田は一面早苗で埋まり、その後、直会となりました。

- ・14時30分～ グレート家康「葵」武将隊酒井忠次、榊原康政、小松姫、水野勝成の4武将による演武の舞、14時50分から岡崎城西高等学校による和太鼓演奏5曲が行われました。
- イベントの最後となるトラック荷台上からの餅投げでも、多くの参加者で賑わい、15時35分全ての行事が終了しました。



六中・六北中ブラスバンド



御田植え唄



お田植え



お田植えおどり

平成25年の六ツ美地区のお祭り行事

1. 久世の殿様行列 (井内町)

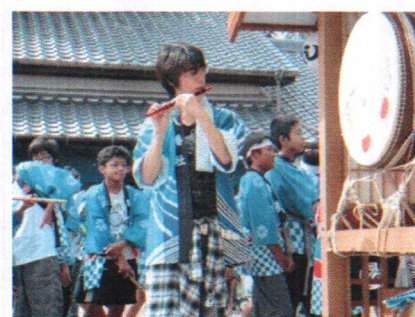
井内町八幡宮 例大祭10月第1日曜日 8時～



この地に久世家の子孫、久世広宣(別名久世三四郎)という人が住んでいた。岡崎城主松平氏に奉公し、武田勢相手の活躍、尾張長久手の戦いや小田原の役などに功績をあげ、褒美として6千石を受けました。その後、広宣の三男広之は1663年に徳川幕府の老中に付き、下総国関宿(千葉)で5万石の城主となり、幕府での重職を担う殿様でした。井内から出た久世のお殿様の子孫は、代々関宿の城主を継ぎ、明治4年の廃藩置県では華族に列せられ名を残しました。
井内町久世という字名の由来はこの久世家から来ていると言われ、例大祭には町内を挙げ、「久世の殿様行列」が雅楽の生演奏で、巫女の舞と共に町内を練り歩きます。

2. チリカラ囃子 (中島町)

中島八幡宮 例大祭10月第2土曜・日曜日 12時～



長唄の囃子用語で <ちり>は大鼓(おおつづみ) <から>は小鼓(こつづみ)の音をあらわす擬声音で、屋台に乗って大鼓と小鼓で奏する長唄独特の手法を三味線のリズムや速さにあわせ、軽快に大鼓と小鼓を打ちます。例大祭には子供たちが曳く屋台の中で大鼓・小鼓をにぎやかに鳴り響かせ、笛にあわせて町内を練り歩きます。

3. 獅子舞 (正名町)

正名占部川神社 例大祭10月第4日曜日 9時～



「こども獅子舞」は笛、太鼓にあわせて獅子2頭が「たてがみ」をなびかせ、まるで歌舞伎の連獅子を想像させる舞です。境内狭しと軽業師のように回転を披露します

4. 浦安の舞 (下和田町)

下和田犬尾神社 例大祭10月第4日曜日 14時～



5. 巫女の舞 (定国町)

定国素盞鳴神社 例大祭10月第4日曜日 10時～



6. 浦安の舞・チャラホコ太鼓 (中之郷町)

中之郷神社 例大祭11月第1日曜日 10時～

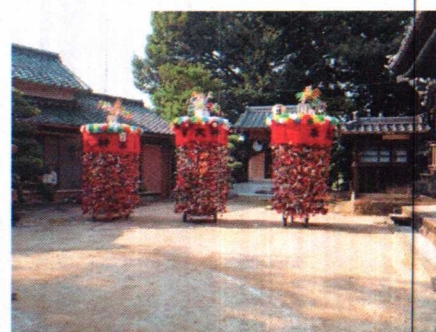


「浦安の舞」は昭和15年11月10日「皇紀二千六百年奉祝祭」に合わせ、全国の神社で奉祝臨時祭を行うに当たり、祭典の中で奉奏する神楽舞として作られました。古語で「うら」は心を指し、「うらやす」は心中の平穏を表す語で、国の平穏無事が題名の「浦安」に込められています。

「チャラホコ太鼓」は矢作川沿岸に伝承された郷土芸能です。真鍮製胴のチャラホコ太鼓と木製胴のコンコロ太鼓、横笛を使用したお囃子で、太鼓のリズムを言い表したものです。例大祭に山車と共に町内を巡回します。

7. 堤通り手永御田扇祭り(高橋町⇒上合歓木町)

平成26年7月20日



8. 山方手永御田扇祭り(野畑町⇒若松町)

平成26年は7/20若松⇒針崎



「お田扇祭」は正式には「皇大神宮御田扇祭」といい、「田扇」「お田扇」「扇さん」とも呼ばれる年中行事が、7月に行われます。御田扇祭の創始者は岡崎藩主本多豊後の守康重(異説もある)といわれ、伊勢神宮から受けた神符の神輿が威儀物と共に村から村へ渡御する、江戸時代から引き継がれた五穀豊穡を願う祭です。岡崎藩は行政区画を六つの地域に分け、最高責任者として世襲制の大庄屋を設け、この地域の行政単位を「手永」と呼び、藩の支配体制に組み込み、村作り、安全・治安対策に活用したと考えられます。御田扇祭は六手永(川西・長瀬・北山中・東山中手・山方・堤通り)で行われていましたが、時代と共に変化し、廃止、簡素化がされ、現在、神輿が渡御するのは「山方手永」と「堤通り手永」となりました。

堤通り手永20町: 赤浜・中之郷・上青野・高橋・上合歓木・下合歓木・高落・新村・西浅井・東浅井・安藤・福桶・下三ツ木・上三ツ木・下青野・在家・土井・牧御堂・法性寺・宮地(巡回順路)

山方手永 13町: 針崎・柱・羽根・井内・下和田・国正・正名・永野・定国・中村・坂左右・野畑・若松(巡回順路)